

令和5年度 公民科 「政治・経済」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3年A～G組
教科書	政治・経済（東京書籍）	副教材等	政治・経済資料2023（とうほう）

1 学習の到達目標

日本と世界の諸地域の歴史・伝統や、言語・生活・文化の地域的特色への興味・関心を高め、基本的な概念や制度、人間としての生き方などについて比較検討して理解を深めるとともに、現代社会における様々な課題を解決し、異文化理解、多文化共生のより良き未来を志向して国際社会で活躍するに必要な思考・判断・表現する能力、および語学・語彙やコミュニケーションの能力を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 現代の政治	1節 民主政治の基本原則	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③現代の民主政治 ④世界のおもな政治体制	○民主政治の成立を支えた出来事について理解したか。 ○「法の支配」と法治主義の違いを考えたか。 ○人権保障の歴史的变化を考察できたか。
	5		2節 日本国憲法の基本原則	①日本国憲法の制定と基本原則 ②基本的人権の保障 ③平和主義	○大日本帝国憲法と比較しながら考察したか。 ○新聞記事などを利用して現実の問題や課題を憲法の理念との関係で考えたか。
	6		3節 日本の政治機構	①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治	
			第1回考査		
	7		4節 現代政治の特質と課題	①戦後政治と政党 ②選挙と政治意識 ③世論と政治参加	○政党の変遷について調べ、その特徴について考察したか。 ○一票の格差の問題について考察し、選挙制度のあり方について考えられたか。
	8		5節 現代の国際政治	①国際政治の特質 ②国際社会と国際法 ③国際連合の役割と課題 ④戦後国際関係の展開と日本 ⑤国際政治の課題 ⑥地球環境と資源・エネルギー問題 ⑦国際社会における日本の役割	○国際連盟と国際連合を比較し、改善点と今後の課題を考察できたか。 ○領土問題について、日本を含めて様々な国家間で未解決の問題があるが、国際平和の維持と安定のためにも、平和的な解決に向けて広い視野にたつて継続的に努力する態度が必要であることを認識できたか。
	9		第2回考査		
		第2章 現代の経済	1節 現代の資本主義経済	①資本主義体制の成立 ②資本主義経済の発展と変容	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 現代の経済	2節 現代経済のしくみ	①経済主体と経済の循環 ②生産のしくみと企業 ③市場経済の機能と限界 ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと機能 ⑥財政のしくみと機能	○市場における価格の役割を考察し、その重要性について理解を深められたか。 ○金利や金融機関の役割について理解を深められたか。 ○この時代を象徴する出来事について整理し、その背景について考えたか。
	11		3節 日本経済の発展と産業構造の変化	①経済再建から高度成長へ ②オイル・ショック後の日本経済 ③日本経済の現状	
	12		4節 福祉社会と日本経済の課題 第3回考査	①公害と環境保全 ②消費者問題 ③農業・食料問題 ④中小企業の現状と課題	
	1	第3章 現代社会の諸課題	5節 国民経済と国際経済 1節 日本社会の諸課題 2節 国際社会の諸課題	⑤雇用と労働問題 ⑥社会保障と福祉 ①貿易と国際収支 ②国際経済体制の展開 ③発展途上国の経済 ④地域主義の動き ⑤グローバル化する世界経済 ①少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか？ ②地域社会を活性化するにはどうすればよいのか？ ③どのようにして若者の労働環境を改善するか？ ④中小企業の活路はどこに？ ①地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか？ ②経済援助は貧困を削減できるか？ ③パレスチナ問題とは何か？ ④地球社会で日本がなすべきことは何か？	○日本の国際収支の変遷について調べられたか。 ○第二次世界大戦後の国際経済のおもな出来事を整理できたか。 ○国際間の経済協力のあり方について考察できたか。 ○EUの歴史的変化を調べ、整理できたか。また、TPPについて考察できたか。 ○国際金融の現状を新聞記事などで調べられたか。

3 評価の観点

関心・意欲・態度	現代社会における様々な政治的・経済的事象に対して関心をもち、意義や役割、課題解決に向けた取り組みについて意欲的に追究しようとしている。
思考・判断・表現	現代社会における様々な課題について多面的・多角的に考察し、これからの国際社会における日本の役割について自分の考えを適切に表現している。
資料活用の技能	課題解決のために必要な資料を収集し、自分の意見をまとめるために効果的に活用している。
知識・理解	現代社会を理解する上で基本となる事項についての知識を身に付けている。

4 評価の方法

定期考査の成績、提出物の提出状況や内容、授業内に実施される様々な課題に対する取り組みの状況を上記の評価基準と照らし合わせて総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

授業に受け身で参加するのではなく、自分自身で積極的に課題を見つけ、解決する姿勢・意欲をもって臨みましょう。